

中国地方土砂災害サミット ～土砂災害から地域を守るために～

中国地方は多くの土砂災害危険箇所を抱える地域であり、また近年、短時間記録的豪雨の頻発により、土砂災害の多発化、激甚化が進んでいます。特に、平成26年8月20日に広島市で発生した豪雨では、74名の方が亡くなる甚大な被害となりました。

このような状況を踏まえ、この度「中国地方土砂災害サミット」を開催し、基調講演、平成26年8月20日広島豪雨土砂災害に関する報告の他、土砂災害を経験された首長に経験を語っていただき、災害対応のノウハウや災害に備えて準備しておくことについてパネルディスカッションを行いました。サミットで得られた貴重な経験談や今後の土砂災害対策への提言等は、今後ホームページ等により情報発信を行い、土砂災害対策の推進に繋げていきます。

■パネルディスカッション ～土砂災害の経験から～

災害を経験された首長から、被災時にできたこと、できなかったこと等について当時の状況が語られ、それらを踏まえて、初動対応や平常時からの備えなど今後災害対応にあたる首長へ伝えたいことについて意見が交わされました。

【パネリスト】



パネルディスカッションの様子



吉田 秀光 三朝町長
[平成10年台風10号災害を経験]

町内の地理を知ることが大切。避難所での住民の体調管理も欠かせない。



下森 博之 津和野町長
[平成25年7月豪雨災害を経験]

現場のイメージをつかむこと。まずは避難準備情報を出し、住民に避難への準備をしてもらうことが大切。



松井 一實 広島市長
[平成26年8月豪雨災害を経験]

時々刻々と情報が伝えられるようなシステムづくり、また知恵と対応力を備えた機動的な組織づくりが必要。



松浦 正人 防府市長
[平成21年7月中国・九州北部豪雨災害を経験]

普段から自分の命は自分で守ることを伝えていくことが重要。また土石流は幾重にも襲ってくるため、避難場所までの安全確保も大切。



福田 良彦 岩国市長
[平成26年8月豪雨災害を経験]

住民との危機意識の共有が必要。避難勧告や避難指示は、空振りや恐れない事が重要。

【コメンテーター】



大野 宏之
水管理・国土保全局
砂防部長

被害が発生するまでの間において何時までに何をするのか事前にタイムラインを作成し備えておくことが必要。

【コーディネーター】



高橋 清子
中国新聞社 論説委員

今日の議論で出た課題・教訓をそれぞれが持ち帰り、私たち住民を含め町全体でどのように減災していくかを考えていくことが必要。

- 【開催日】平成27年2月16日（月）
【場所】広島市中区 アステールプラザ 中ホール
【主催】国土交通省 中国地方整備局
【共催】広島市
【後援】鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、
（一社）中国建設弘済会
【参加人数】約500名
【次第】
(1) 14:00 開会
(2) 14:05～15:00 基調講演 ～土砂災害から学ぶ～
(3) 15:00～15:20 報告 ～平成26年8月20日広島豪雨
土砂災害について～
(4) 15:30～16:55 パネルディスカッション
～土砂災害の経験から～
(5) 17:00 閉会

■基調講演 ～土砂災害から学ぶ～



全国治水砂防協会 岡本理事長

行政は知らせる努力、住民は知る努力が必要。地域に残る先人の知恵を伝えていくことも重要。

■報告 ～平成26年8月20日広島豪雨土砂災害について～



松井広島市長

発災当初から現在に至るまでの対応状況や対応にあたっての国・県・市の連携について報告